

### (3) 高3「キャリアパス探究」

- ①授業時間 総合的な学習の時間（1単位 毎週木曜日）の授業を中心に行う。
- ②対象 高校3学年全生徒
- ③目標 2年間の「課題研究」について整理し、大学等で継続して追究したい内容について考え、自分の進路、人生に関して考えを深める。
- ④授業内容  
以下のシラバスに基づき、まず2年間取り組んできた、「地域課題研究」、「異文化研究」を中心に各自取り組んだ諸研究についてまとめ、その後、卒業後、大学等で引き続き追究したい内容について考察し、最後に自分の人生、進路に関して「英語で宣言文」を作成した。

### 課題研究Ⅲ（グローバル発展～キャリアパス探究）シラバス

Stage 1 課題研究（1年地域課題研究・2年異文化研究）を振り返る①～③  
 Stage 2 「学びの計画書」の作成、キャリアパスの探究 ①～③  
 Stage 3 「シンカ宣言」の作成 ①～③

	日程	内 容
1	4/11	オリエンテーション
2	18	Stage1-1 課題研究（1年地域課題研究・2年異文化研究）を振り返る①
3	25	” 1-2 ” ②
	5/15	講演会
4	6/6	Stage 1-3 課題研究（1年地域課題研究・2年異文化研究）を振り返る③
5	6/13	Stage 2-1 学びの計画書・キャリアパスの探求①
6	20	” 2-2 ” ②
7	7/4	” 2-3 ” ③
8	7/4	Stage 3-1 シンカ宣言 ①（日本語）
9	7/18	” 3-2 ” ②（英語）
10	9/12	” 3-3 ” ③（英語）
11	1/20	まとめアンケート

⑤実施状況

1. シート①に基づいて各自2年間の課題研究およびその他の研修等についてまとめた。
2. シート②を使って「学びの統合化」を図り、卒業後、大学等での継続して探究したい対象を追究した。
3. シート③（モデル例）を示して、各自「シンカ宣言」の骨格、或いは日本語版を作成し担当者がチェックした。
4. 英語で「シンカ宣言」を作成、提出。
5. 英語科で添削して生徒に戻す。
6. 生徒は訂正箇所を修正して完成

⑥成果及び反省

3年次は、1, 2年次に取り組んできた自分の課題研究を振り返り、SDGs（持続可能な開発目標）の解決に向けて自分の何が生かせるか、どう貢献していきたいか。自分の生き方・在り方、キャリアパスを考えることにある。1月の生徒アンケートでは、佐高の伸ばしたい6つの力のうち⑥「グローバル社会に貢献する高い志」が高1時 54.7% → 高2時 62.9% → 高3時に 78.9%と、特に高3段階になって伸びた。シンカ宣言の執筆は、SDGsへの貢献を踏まえたキャリアパス研究の深まりに効果的であった。

また、将来の学び計画を具体的に詳らかにして、高校生活で打ち込んだ課題研究を有効に使いながらAO入試や推薦入試にチャレンジし、進路実現をする準備が、基本的に7月のシンカ宣言の執筆段階で整った。実際、AO・公募制推薦入試の合格数も、国公立大学を例にみると過去年間8名、6名、6名だったのが、昨年度（SGH最初の卒業生）16名、今年度27名を輩出し、SGH活動との相関が明らかである。進路実現が目的の探究は本来の探究ではないけれども、生徒たちの活動が大学入試においても評価された形である。

課題研究Ⅲ（グローバル発展～キャリアパス探求） 第1～3日

Stage 1 課題研究（1年地域課題研究・2年異文化研究）等を振り返る

	姓 名		
	1年（地域課題研究）	2年（異文化研究）	その他（台湾グローバル研修、自主研修、短期留学等）
1. 領域			
2. ナーモ			
3. メンバー			
4. 自分の役割 (得意として取り組めたことや得意な分野)			
5. 課題意識 テーマ設定の理由			
6. 展開			
7. 方法 (実際にやったこと)			
8. F/W			
9. わかったこと			
10. わからなかったこと			
11. 振り返り			
12. 賞賛した点			
13. 工夫点			
14. 得られたこと			
15. その他			

<シート①>

課題研究Ⅲ Stage2 「私の学び計画書」へのプレシート。

2018.6.21(水)7限

Q1: 2年間どのような研究をしてきましたか。

Q2: その中で継続して行いたいものは何ですか。

Q3: それらほどのような大学、学部、学年の元でできそうですか。

理由:

Q4: 志望大学・学部

第1志望  
理由:

第2志望  
理由:

<シート②>

学びの計画書・シナガ宣言の例(文系)

<Stage 2>

①学びの記録(1. 2年次の研究を振り返って)

自分は、いわゆる「受験英語」と「実践英語」の両立性について関心があった。進学後では、本館も保護者もまず受験を意識し、まづどうしても「受験」に役に立つ学習を期待する。一方で英語に関心のあるもので英語が話せるようになりたいと考えたいものはほばないだろう。しかし「何年も英語を勉強しても少しも英語が話せるようにならない」という苦悶もよく聞き実際それは日本ではよくある現実である。

受験生としては辭けて通れない「受験」勉強をしつつ、自由に英語が話せる、出来れば簡単な社会問題について自分なりに意見を言い議論することが出来るようにならないであらうか。そのしつ關心を元に自分は、次の仮説を元に研究を進めた。

仮説:「受験英語」も「実践英語」になり得る

この仮説を元に、1年目は地域課題(日本の英語教育の問題)として「日本の英語教育の実態」についてしらべその問題の解決策について考察した。2年目は another country として同様に国際比較の中で英語の成績が芳しくなかったアジアの諸国「諸国の英語教育」をテーマにその実態問題の等々調べ比較研究を始めた。以下が2年間の研究を通してわかったことである。

1. これまで行われてきた日本の英語教育(部活等)の全てが悪いわけではない
2. 社会問題等の高度なテーマを議論するためには「受験英語」で学ぶ「語彙」「表現」等の獲得はむしろ必須である。
3. しかしこれまでの指導法だけでは、上記の目標は達することが出来ない。

結論

従来の指導法に執着したまま英語を話せることによって上記目標の達成が出来、満足させることができる可能性がある。

残った疑問(継続研究テーマ)

実際比どのような学習スタイルがテーマをどう解えることで可能となるか

思ひの学びの計画書

そのためには「大学軍」ではなく、「実践的」英語教育を先進的に行っている「留学」専門の学部等を持つ大学を志望したい。

第1志望 上智大学外国語学部

課題研究Ⅲについて(グローバル発展〜キャリアパス探求)

1. 今迄(期末テスト終了後)の流れ。
  - Stage 3『シナガ宣言(仮説)』の作成
  - 『私の研究テーマ(Stage2で決定)』を元に自分なりの「ツツ力宣言」を英語で作成する。(期末テスト後の後半)
  - 『ツツ力宣言』は基本的に『私の研究テーマ』の要約となる。日本語を併せてから作成しても良い。新聞記者したモデル(本誌および雑誌等)を参考にする。
  - 分量: A4用紙の半分程度。

<準備>

本大会録完成(基本的にワープロ用紙)→転写に提出(英語科へ)→英語科およびITでチェック→転写→訂正してプリントアウトして提出。テーマは提出後へ

2. 『課題研究Ⅲ』の最終的な提出物および提出方法

提出物	提出形式・方法
1 『地域発展地研究・卒業論文研究を振り返る』	テーマ(コンピュータ室の提出物)
2 『私の研究テーマ』	プリント(本館まで提出)
3 『ツツ力宣言(仮説)』	プリント(高成所蔵をプリントアウトしたもの) テーマ(コンピュータ室の提出物)